



JCHO 看護職クリニカルラダーモデル

		レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ
経験年数 目安	10~					
	9					
	8					
	7					
	6					
	5					
	4					
3						
2						
1						
チーム医療		看護の役割・責任 病院組織、多職種との協働の中にある看護職の役割・責任 他職種の役割・責任、立場、考え方の理解 他職種との積極的なコミュニケーション		それぞれの職種の専門性に応じた役割分担の促進・調整力 適切なリーダーシップとフォロワーシップの発揮		
社会組織人	個人の業務(タスク)管理		部署の業務(タスク・フロー)管理		医療・介護医療チームの業務フロー管理	
	社会人としての基礎(挨拶・報告・相談)	意図的に訊く力	発言する責任・発言力	意見の交換	自律・意見の集約・調整・交渉力	
		疑問・問題提起		問題の把握、解決のプロセス	問題の的確な把握、プロセスの評価	結果・成果への責任
JCHOの ミッションに 基づく 統合的な 目標		・指導の下で安全な看護ができる。 ・組織の一員であることを自覚し、施設を利用する全ての人、協働する全ての仲間に丁寧な対応ができる。	・地域における自施設の機能を理解できる。 ・地域医療および地域包括ケアのチームの一員として看護職に求められる役割を考え行動につなげることができる。	・地域医療および地域包括ケアのチームの一員として、患者および家族、地域の人々の生活上のニーズに応えるために積極的に問題解決に参画できる。	・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズと統合したケアを提供するためにリーダーシップが発揮できる。	・地域関連施設と連携を図り、ケアを継続できる。 ・患者および家族の地域における生活上のニーズを把握し、医療者のニーズと統合したケアを提供する実践モデルとして行動できる。
実践	看護師	先輩の指導の下に、基本的なケアを安全かつ確実に行う。地域医療、保健福祉システムを理解する。	日常的に必要なとされるケアを安全かつ確実に実施する。フィジカルアセスメントに基づく実践を行う。	様々な状況(急変時、緊急性の高い状況等)に応じたケアを、安全かつ確実に実施する。患者・家族の生活上のニーズに添い、在宅に向けた創意工夫のある支援を行う。	医療・保健・福祉制度等の活用を提案し、安全性・効率性・緊急性の視点をふまえた医療・保健・福祉チームのケア提供を推進する。下位者への教育的役割を担う。	患者および家族、医療・保健・福祉チームが持つ問題や課題について、優先性・継続性・予測性をもった分析を行い、実践モデルとしてケアを行う。多職種で患者を支援する際の連携調整を行う。
	保健師	指導の下に、個人や家族に保健指導を行う。	部署および院内の健康管理部署において、個人や家族の日常的な保健指導を行う。指導の下で、地域診断を行い、健康管理に関する地域の特性をとらえる。	地域診断や地域の特性を理解したうえで、支援を受けながら集団教育を計画し、実施する。支援を受けながら、地域関連施設の各職種への調整を行う。支援を受けながら、地域関連施設で健康講話等の保健指導を行う。	集団への教育活動(教育計画の立案・実施・評価)を責任をもって行う。(PDCサイクルに基づいた実践)退院調整活動ではリーダーシップを発揮し、地域関連施設との調整を行う。下位者への教育的役割を担う。	他職種との訪問やケアプランの立案等を通して、生活の分析・地域診断等の専門性を発揮し、医療・保健・福祉チームによる実践をより円滑に行うためのマネジメントをする。地域関連施設の担当者や地域保健師との円滑な連携体制を構築する。
	助産師	指導の下、助産診断や安全な助産ケアを実践する。	正常な助産ケアを単独で、安全かつ確実に実施する。指導の下、ハイリスクの妊産婦への助産ケアを安全かつ確実に実施する。	病棟および助産師外来等で、妊娠期・出産期・産褥期・次回の妊娠までの健康生活管理等をふまえた、個別的なケア・生活支援を行う。ハイリスクの妊産婦とその家族に対し、自立したケアを行う。女性のライフステージに沿った健康生活へのケアを、地域でも支援を受けながら提供する。	正常・ハイリスクの妊産婦と家族へのケアにおいて、モデルとなる実践をする。助産師外来・院内助産、地域における訪問等において生活環境や個別性を考慮したケアを行う。また、育児支援に関する情報提供を行う。女性のライフサイクルに係る地域の支援活動に参画する。下位者への教育的役割を担う。	女性とその家族のライフサイクルや生活に沿った、創造性のある助産・健康生活へのケアを提供する。地域の要請に応じた女性のライフサイクルに関連する教育的活動のモデルとなり、他職種との協働など、多彩なアプローチで地域でのケアを継続・推進する。
組織役割	社会組織人	組織の理念、ミッションを理解し、組織の一員としての自覚を持つ。挨拶、報告、相談、自己の業務管理等、社会人・組織人としてのルールを身につける。	組織の一員としての役割を理解し、目標達成に向け主体的に取り組む。業務の管理を自律して行う。小さな気づきについても自ら問題提起する。健全な経営の理解につながるコスト感覚を身につける。	所属部署の目標を意識した行動をとる。チームで仕事をする上で、相手を気遣い、良好な人間関係を保つ。診療報酬制度等を踏まえながら医療対策に関心をもち、医療全体を考える視点をもつ。	目標達成のために関連する職種と相互関係を築く。論理的思考に基づく問題解決力、優先順位を判断し決定する力をもって業務にあたる。診療報酬制度や医療対策、行政や地域自治体の活動を把握し、期待される役割をふまえて行動する。	組織全体を見渡しつつ看護職の専門性と役割をふまえ、関連部署、他職種、地域関連施設との連携を担う。医療対策や診療報酬制度、および地域ニーズを踏まえて看護職者のとるべき行動を表現する。
	チーム医療	他職種との連携の実情を理解する。医療チームにおけるメンバーシップを理解し、他職種の機能と役割を考え、必要な情報を共有する。	他職種における役割や考え方の相違を知り、お互いの立場を理解する。日々の業務において他職種と協働する。 □	患者および家族の問題や課題について、医療・保健・福祉チームと情報を交換しあい、個別性を捉えたケアに繋げる。	他職種と互いの役割と立場を尊重し合い、チーム活動を推進する。	医療・保健・福祉チームの各職種が専門性を発揮して協働できるよう、互いの意見を引き出すコミュニケーション力を駆使し調整する。地域包括ケアの視点で、ケアのマネジメントをする。
自己研鑽の過程・統合化 (キャリア開発への道のり)		自己の学習課題を指導によって発見する。必要な知識・技術を主体的に学習する。	日々の実践から生じる疑問点など、自己の学習ニーズを明確にし、知識・技術の習得にむけた学習活動を展開する。	実践の多面的な分析・評価(研究的な視点)を行い、自己の実践の振り返りをする。組織の中での自己の立ち位置を確認し、中長期的な自己のキャリアを描き始める。	組織ニーズを意識しながら、自己のキャリア形成像を描ける。専門領域や高度な看護技術等の習得に主体的に取り組める。	地域社会の課題等を踏まえて自己のキャリア形成を思考する。専門領域や高度な看護技術等についての自己の学習活動を推進する。
知識の体系化			○論理的思考	○研究的視点 (仮説思考) (戦略思考・定量分析)		
人間関係の構築		○多職種連携・チーム医療の視点	○地域包括ケアの視点			
重点を置く教育項目		○接遇・報連相	○プレゼンテーション		○チームマネジメント	
		○ストレスコントロール(セルフケア)			(ラインケア)	
		○看護倫理			○教育・実習指導	
専門的スキルの習得		○アセスメントに役立つ疾病学(糖尿病・認知症等)				
		○医療安全・感染管理				
		○退院支援		退院調整		